



インバウンド旅行者観光実態調査結果

～神戸空港国際化を契機に神戸の宿泊率が上昇～

一般財団法人神戸観光局（以下、神戸観光局）では、神戸を訪れるインバウンド旅行者の来訪実態を把握するため、毎年アンケート調査を実施しています。

本調査では、神戸空港の出入国の割合や、神戸市内への立ち寄り率・宿泊率、周遊範囲を国籍別に分析し、神戸市内の訪日旅行の傾向を把握しています。

2025年調査では、神戸での宿泊率が前年調査から6ポイント上昇し、滞在時間の伸びが見られました。あわせて、神戸を訪れるインバウンド旅行者の最新の訪問実態や市場別の特徴について、下記のとおり報告いたします。

【調査結果】

神戸観光局ホームページにて公表

<https://kobe-dmo.jp/260601-2/>



神戸の代表的な風景等を用いたアンケートカードを配布し、調査を実施

【調査結果の概要】

(1) 全体傾向

神戸宿泊率は82%、前年調査より6ポイント上昇。訪問エリアは平均2.7か所で神戸を起点に周遊傾向

- ・回答者の90%が個人旅行者。
- ・出入国空港は、関西国際空港が5割と最も多く、次いで神戸空港が3割。
- ・立ち寄り場所は、神戸市街地〔80%〕が最多、次いで大阪〔65%〕、京都〔42%〕。
- ・神戸での宿泊率は82%と前年調査より6pt高く、訪問エリア数は平均2.7か所。神戸を起点に2～3都市の周遊傾向が多かった。
- ・神戸市内での平均訪問スポット数は3.6か所で、三宮、メリケンパーク、南京町、北野異人館街、有馬温泉などの定番スポットの回答が多かった。
- ・神戸旅行の満足度は97%と高く、約半数が「非常に満足」と答えた。「神戸ビーフ」や「港町の景観、夜景」など、神戸らしい魅力が評価されている。
- ・改善点としては、「買い物店舗や飲食店の営業時間の延長」、「交通機関の乗り換えの複雑さの解消」を求める声が多く挙げられた。

(2) 市場国・地域別の傾向

① 台湾

家族・グループ旅行の回答が多く、神戸の宿泊率と市街地への立ち寄りが比較的多い

- ・「配偶者・パートナー」との旅行〔27%〕が最も多いが、一方で「その他家族・親族」〔23%〕の回答割合も全体より高い。また、神戸空港利用者の回答が多いこともあり、団体旅行の割合〔14%〕は他市場と比べて高く、比較的グループサイズが大きい傾向が見られる。
- ・神戸宿泊率〔88%〕や神戸市街地への立ち寄り〔83%〕はいずれも全体より高く、大阪〔62%〕や京都〔40%〕の立ち寄りが一定数あり、神戸を中心に近隣都市を周遊するスタイルも見られる。
- ・神戸ビーフに加え、港町の風景や夜景など、写真映えする景色が人気を集めている。

② 中国

若年層を中心に個人旅行需要が高い。宿泊率は低いものの、市内広域を周遊

- ・個人旅行者が98%と全体より高い。年代は30代〔39%〕・20代〔33%〕の回答が多く若年層の割合が高い。
- ・関西国際空港の利用〔77%〕が中心で、神戸空港の利用は17%にとどまる。
- ・神戸市街地への立ち寄り〔88%〕は高いものの、神戸宿泊率〔82%〕は東アジアの中で最も低い。また、大阪・京都での宿泊割合が一定あることから、これらの都市を拠点に神戸を訪れる傾向が見られる。
- ・神戸市内の立ち寄りスポットとして、全体と比較して「明石海峡大橋」や「神戸須磨シーワールド」への来訪が高く、神戸市街地だけでなく、広く市内を周遊している。

③ 韓国

神戸宿泊率89%。神戸空港の利便性を活かした短期滞在型旅行が中心

- ・「配偶者・パートナー」との旅行〔28%〕が中心であるが、「就学児以上の子連れ家族」〔14%〕の割合が全体よりも高い。
- ・神戸空港の利用理由では「来訪場所から最も近い」が約半数を占め、利便性が評価されている。
- ・神戸宿泊率は89%と高い。1~2泊の短期滞在が中心で、立ち寄りエリアは「神戸市」以外の立ち寄りが全体と比べて低く、神戸を拠点とした短期間旅行が多い。
- ・関心は「神戸ビーフ」よりも「日本のローカルフード」に向けられる傾向が見られる。

④ 香港

一人旅、配偶者・パートナーが多く、有馬温泉を目的とした長期滞在で高付加価値旅行の傾向

- ・「配偶者・パートナー」「一人」がともに36.4%で最多。
- ・関西国際空港の利用が95%と大半を占める。
- ・有馬温泉の宿泊率〔42%〕が高く、魅力を感じたこととして「有馬温泉」の回答も多いことから、「有馬温泉」が目的地となっている旅行者が多く見られる。
- ・平均宿泊数は3.6泊と東アジア他国・地域の中で一番長く、総消費金額が最も高い148,227円。

⑤ 東南アジア

シンガポールの回答数多く、自然に関するスポットが人気。大阪を起点とした関西周遊の傾向

- ・関西国際空港の利用が81%と中心であるが、成田国際空港・羽田空港の利用も一定数見られた。
- ・平均宿泊数は4.5泊と他国と比べて長く、5泊以上の滞在が24%を占める。宿泊理由として「神戸をゆっくり観光したかった」〔39%〕が最も高い一方で、「神戸で仕事があったから」〔17%〕が全体より高かったことから、ビジネス滞在も一定数見られる。
- ・神戸市内の立ち寄りスポットとして、全体と比較して「神戸布引ハーブ園」への来訪が高く、自然に関連するスポットへの関心が高い。

⑥ 欧米豪

自然や日本文化に関するスポットの関心が高く、広島や東京を含めた広域周遊が多い

- ・利用空港は関西国際空港〔38%〕がメインだが、成田国際空港・羽田空港の利用〔各 19%・24%〕も全体と比較して高い。
- ・大阪・京都への立ち寄り〔各 78%・66%〕が全体より高く、神戸宿泊率は63%と他市場の中で最も低い。神戸に宿泊しない理由として「大阪や京都から日帰りで行けるため」が6割を占めた。広島や東京を含めた広域周遊の中で、関西圏を拠点に神戸を日帰りで訪れるケースが多い。
- ・「布引の滝」や「竹中大工道具館」など、自然や日本文化に関するスポットへの関心が高い。

【調査方法】

(1) アンケート収集方法

神戸市内の観光施設や神戸空港第2ターミナルをはじめとする交通機関等で、神戸市内を訪れたインバウンド旅行者にアンケートカードを配布。あわせてポスターも掲出し、掲載した二次元コードからWeb回答画面にアクセスする形式で回答を収集。

(2) 回答回収期間

2025年10月1日～2025年12月31日

(3) 有効回答数

1,329件

(4) 主な調査項目

- ・回答者属性（国籍/年代/グループサイズ/予約方法(団体・個人)）
- ・出入国空港
- ・神戸、大阪、京都などへの立ち寄り状況
- ・神戸市内での立ち寄りスポット、消費額、宿泊状況
- ・神戸の魅力、改善点、満足度